

令和7年10月20日

報道機関各位

熊本大学

第40回熊本大学附属図書館貴重資料展

「永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展」について

熊本大学では、附属図書館と永青文庫研究センターの共催で、附属図書館に所蔵している古文書を展示公開する貴重資料展を毎年開催しています。今年の貴重資料展は「永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展」をテーマとして開催します。

本年9月26日、公益財団法人永青文庫が所有し熊本大学附属図書館に寄託している貴重資料のうち、古文書9,346点が国の重要文化財「細川家文書」に追加指定されました。第40回の資料展では新たに重要文化財となった細川家文書にスポットをあてて開催するもので、このたび指定された古文書の一部を使用して開催します。

初日（11/2（日））には、テーマに関連した公開講演会/第19回永青文庫セミナーも開催しますので、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材をよろしくお願いいたします。

記

＜貴重資料展＞

【テーマ】「永青文庫細川家文書 国重要文化財指定記念展」

【期間】令和7年11月2日（日）～11月4日（火） 10:00-17:00

＜3日間限定＞

＜同時開催：公開講演会/第19回永青文庫セミナー＞

【演題①】「国の文化財（美術工芸品）保護制度について」 —細川家文書を中心に—

【講師】岡村 一幸（文化庁文化財第一課文化財調査官）

【演題②】「加藤家改易から細川家入国へ」 —「天下泰平」と肥後の民衆—

【講師】稲葉 継陽（熊本大学永青文庫研究センター長 教授）

【日時】令和7年11月2日（日）14:00～最長で16:00

【定員】先着130名＜予約不要＞

* 公開講演会/第19回永青文庫セミナーは、後日、附属図書館ウェブサイトへ動画を掲載予定です。

-----以下、貴重資料展・講演会/セミナー共通-----

【会 場】熊本大学ひご未来図書館（中央館）1階（熊本市中央区黒髪2丁目40番1号）

【対 象】一般市民（興味があるかたはどなたでも）

【参 加 費】無料 事前申込の必要はありません。

【駐 車 場】紫熊祭期間中につき、車両入構はできません。公共交通機関をご利用ください。

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/6986>



【問い合わせ先】

熊本大学附属図書館 担当：森下

TEL：096-342-2212

第40回 熊本大学附属図書館貴重資料展

永青文庫細川家文書

国重要文化財 指定記念展

入場・聴講 無料

同時開催

公開講演会・第19回永青文庫セミナー

演題①

「国の文化財(美術工芸品)保護制度について」

— 細川家文書を中心に —

講師

岡村 一幸 (文化庁文化財第一課文化財調査官)

演題②

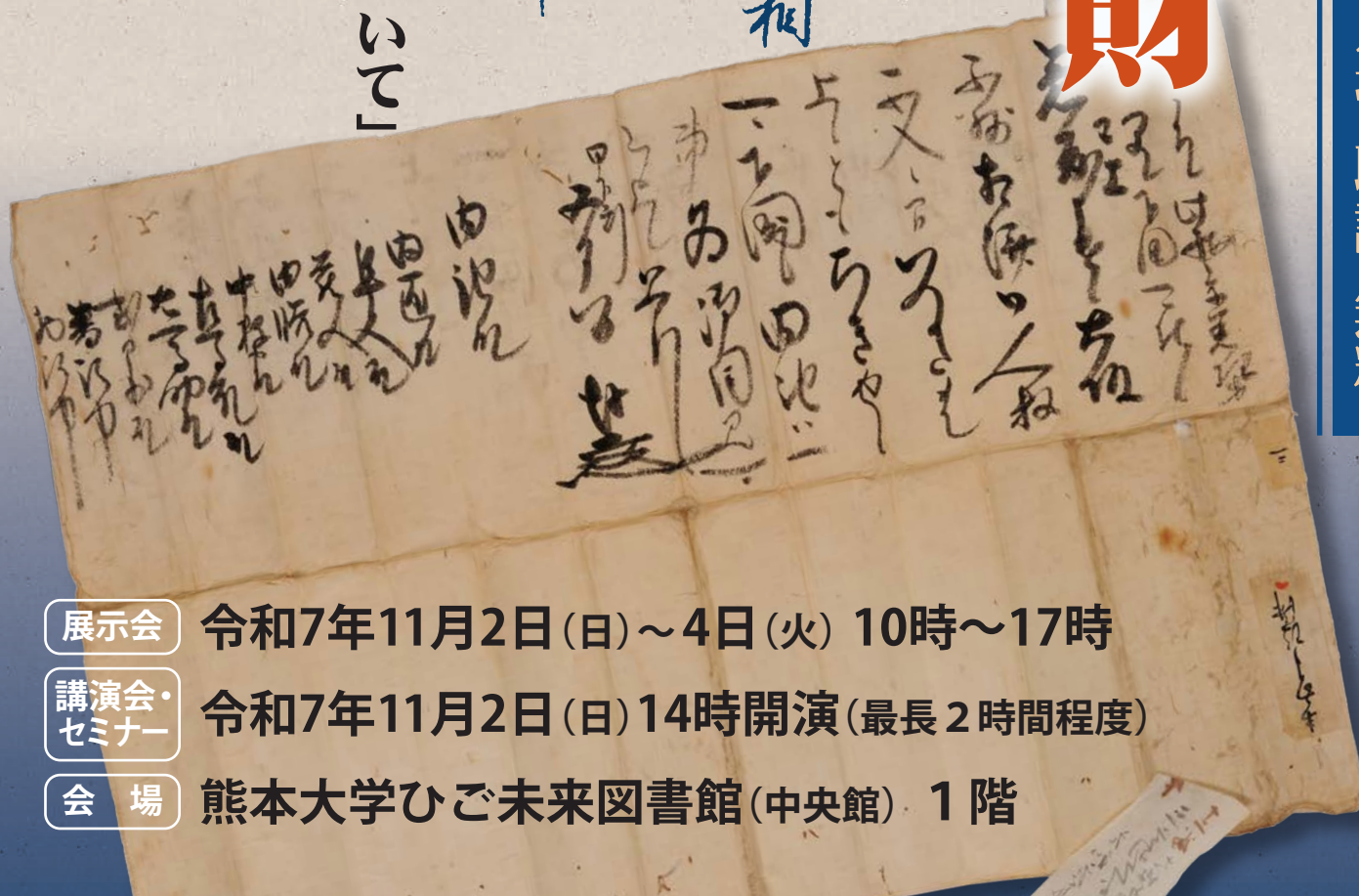
「加藤家改易から細川家入国へ」
「天下泰平」と肥後の民衆」

講師

稲葉 継陽 (熊本大学永青文庫研究センター長 教授)

寛永拾九年十一月八日
相

有



展示会

令和7年11月2日(日)～4日(火) 10時～17時

講演会・
セミナー

令和7年11月2日(日) 14時開演(最長2時間程度)

会場

熊本大学ひご未来図書館(中央館) 1階

共催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター

協力 公益財団法人永青文庫

後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社
NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB

熊本大学は、株式会社肥後銀行とネーミングライツ事業契約を締結し、附属図書館中央館の愛称を「ひご未来図書館」としています。

m
熊本大学
キャンパスミュージアム

フェスタ
国立大学2025



貴重資料展は熊本大学キャンパスミュージアムの一環で実施しています

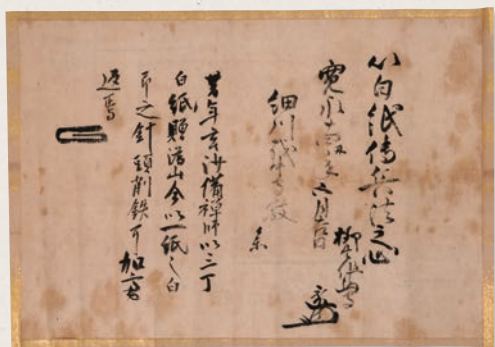
永青文庫細川家文書 国重要文化財 指定記念展

本年、公益財団法人永青文庫が所有し熊本大学附属図書館に寄託している貴重資料のうち、古文書9,346点が国の重要文化財「細川家文書」に追加指定されることになった。

指定品の大半を占めるのは、戦国武将として著名な細川忠興や、江戸初期の明君と評価される細川忠利らの発給文書群、裁可文書群、家臣たちが提出した血判起請文書群、忠利らの相談役であった沢庵和尚の書状群などで、江戸時代初期の古文書群としては質・量ともに類例をみない。さらに、家臣らから藩主への意見書・献策書群、姫君たちの消息群、歴代当主の甲冑の預り証文書群など、江戸時代中期以降の貴重な文書も多数含まれる。

選りすぐりの重要文化財30点余を存分にお楽しみいただきたい。

柳生但馬守と沢庵和尚の 自筆が並ぶ贅沢な一紙



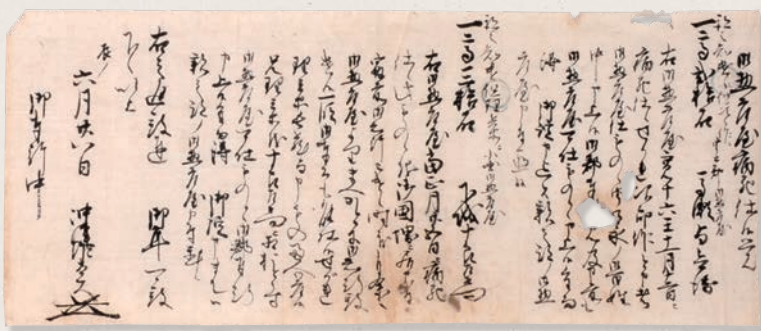
寛永14年(1637)5月吉日

柳生但馬守宗矩印可状并沢庵宗彭極書

寛永14年5月、細川忠利は、幕府兵法師範柳生但馬守宗矩から『兵法家伝書』(進履橋、殺人刀、活人剣)とともに、この「白紙の印可状」を伝授された。本状は宗矩の自筆であり、忠利に兵法免許状として白紙を与え、いわば新陰流の免許皆伝状である。これに將軍徳川家光も帰依した沢庵和尚が自筆で、「白紙の印可状」の意味を中国禅の故事を引用して解説する極書を添えている。宗矩と沢庵の自筆を一紙で見ることができる稀有の史料である。

忠利は慶長・元和期から柳生宗矩に学び、数十年を経てついに印可を許されたが、兵法を完全に会得したとの納得には至らず、江戸で沢庵と、熊本で宮本武蔵らとの問答を、死去の前年まで継続していく。

惣庄屋の世襲には 百姓たちの意思も反映



辰ノ(寛永17年[1640])6月28日

沖津作太夫伺書

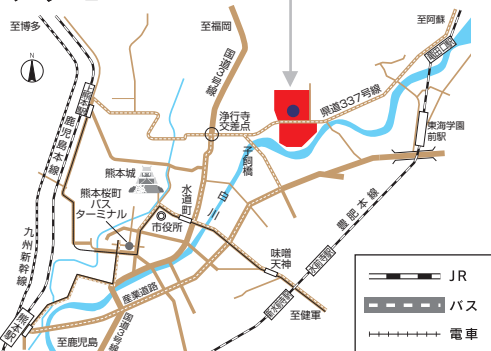
宇土郡惣庄屋馬瀬兵衛と阿蘇郡小国郷の惣庄屋下城十郎左衛門尉の世襲認定について、郡方担当奉行の沖津作太夫が藩主細川忠利の意向を伺った上申書。2件とも忠利が世襲を認める旨、ローマ字印で裁可している。

注目すべきは馬瀬の件で、この上申書が作成された時点まで半年以上も後任未定の状態が続いていたが、子息次郎作が惣庄屋に適任だという「手永ノ御百姓中」からの「申上」を根拠に、本上申書が作成・提出・裁可されている。難航した惣庄屋職の世襲自体に、当該手永の百姓らの意思が直接介在していた事実を示す、貴重な史料である。また小国の下城氏は国境の管理のためになくはならない惣庄屋だと評価されていたこともわかる。

永青文庫とは

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した美術品や文学作品の写本、そして歴史資料(古文書・古記録)等を所有・管理する財団の名称です。これらの品々のうち、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた数万点の歴史資料や写本が1964年に熊本大学へ寄託され、現在まで附属図書館(中央館)で管理し、研究者の利用に供しています。

アクセス



熊本大学ひび未来図書館 〈中央館〉

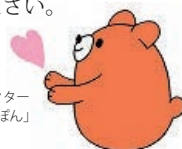


◎熊本桜町バスターミナル (旧称:熊本交通センター)から(16番のりば)

- 産交バス:
楠団地、光の森産交行等(子飼橋経由)
- 熊本電鉄バス:
光の森駅行
「熊本大学前」下車 徒歩3分



※公共の交通機関をご利用ください。



附属図書館支援事業 ～熊本大学基金へのご寄附のお願い～

皆様からの寄附は、図書館を通じての学生サービスや社会貢献を十全かつ迅速に行うための事業に活用させていただきます。
みなさまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【熊本大学基金】附属図書館支援事業 <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/about/donation>



問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555熊本市中央区黒髪2丁目40-1
096-342-2212

<https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>